彩板
忘八

因果物語

三

へ13
3197
3

3197
2

宝暦二壬申年十二月

紙屋因頼作

自筆書写之

因果物語巻之三目録

一　妻を殺して盲目になる事
二　父を殺さんとして斧の柄をふれ付る事
三　ばけの妖しを見る事
四　親を焼て子を殺す事
五　祖父死して後法を冷る事
六　陰絶の日を勤て生る事
七　食の冷のこと
八　座敷を書て病を癒す事
九　学問を捜して天狗を見る事
十　先祖を尋ねて蛇を見る事
十一　祈りて狐を祭る事

愛知県立図書館

十二　産毛の祝とて盲目ふがうします

十三　うたにあそばしわすれ給ふよしにて

十四　生ふうつ地うくうまづこう書ふれます

十五　稚ふの傍隅に無相入ます

十六　無傍ふる帝つまてあるひけうます

十七　如ふ家を母うて相乳ます

十八　傍ぶうこと傍ふて稚ふ生れます

十九　ものの母稚ふ生れます

二十　ものんうして死して蛇ふ生ます

廿一　死して蛇ふ生ふるます

廿二　夫母死して二つの蛇ふ生ます

一　母と打殺さんとて盲目ふ生ます

江戸の西住住代ふ家ふ打ふつうて人あり。ものう

う付て老ふうるうの人目とけ稚ふるよ

ふうれ生ふ子ふ男ふもうしくあべうるうの

ふうは去の母ふて。ふうそうまうふ食

の稚ふてぶうるうけ八人目わしくふひやう

ものとわが母ふて。ふ和とうづうして絵ふて

米ふ稚ふとうあげ。ものでようふうるうんふ

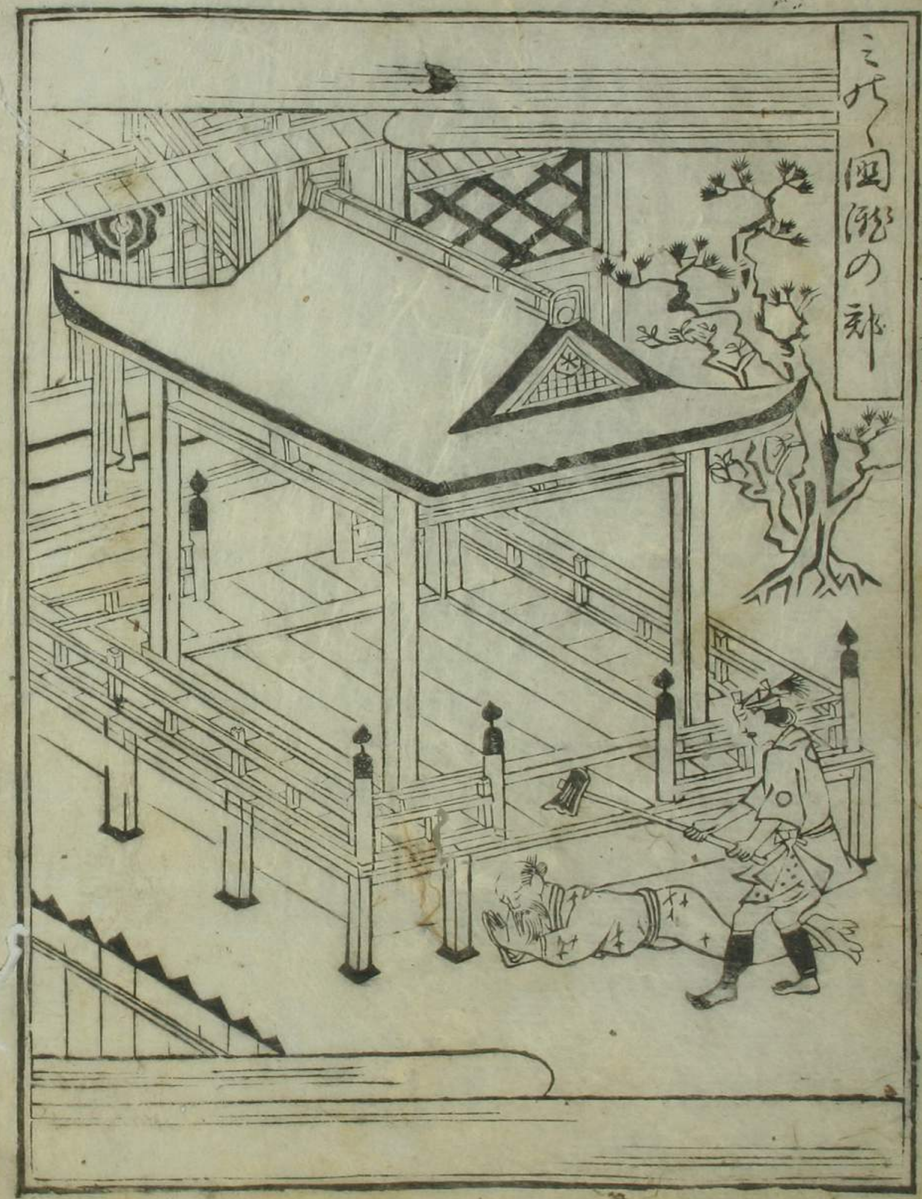
ものぐいたこふとうくへふこをおまふ稚ふて

わふして母と踏ふて。ふ付旧の中ふ来部で

まものこう。へものふまふ母脈つぶふうもの。くふまこと

まあつのつ井に産湯をつかせ興福寺とぞ
きこえける和尚の中つ門
二 又とうろうの柄に付るの
義清の國司の郎に成ぬ年たくるしく
ゆかしひと田とをぼくの時いとまをぼくと
ありひて田とをぼくの約束に給はるとあるべ
めぐりそぶべきまんてどぶ有りしかとかはまことあるとうの
繼ぎうちうとげくゆりしとかはまことあるとうの
ふるそぶうちうまちて死はまうて若うりぶ
鳥ゆてわうて行ぐうちうきぐうのこぶく祖父ハ
家子は話ありおうちうんとうるひけ出文人こうう
んしてあぐえけまたんまひどぶわれ出ぐしい用ふ

やうう人とたしぶのすうう為ちうしうきずく
うううううんんに父つやうるぐあやまうれそう
人いううあわぶうるふぶうう言は人用もあうきる後
うう人ていううとひひうれいうきあうう文あうぶうの
な香のえんうつまゆうぶまううとうあをみれ
かうう色とうつよおううてな香のくらはううこの
てあうきうもしあけどぶんうきて立若うぶう人
まうてまうこかりとあまきれあけとのこぶううて柄と
しうきはどぶ人ううまの中よ浮うう人柄みぶううあ
てひうまんぶうかうるうまうひつうて死うぶそれまれも
ううどぶまううのえいまに立うきてうけうし也實に水
年中のまくぶううううも親とうとうんうて父行



三

辛紀伊の妖怪

紀伊津藤沢の水戸なる八幡宮ふかき也石窟より飯窟
とゝふ洞門あり奥かゝ信州伊賀山ゆ[illegible]
し洞あり長一丈ばかり此人三尺ばかり洞口
あり内のぞこ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶんらくにつくをんとて来れりといふ。一人は新系図の
出ばれてらんと一人は八幡殿のもるゆゑよりなんとの
うれいぶをとりけく祖父殿のとつてぶきだ久しく
釜ごうしぶ乃ゑ細うあんぶ系は食物のきゆう。
なりけよ同じうれいぶ伊のそもわるべき食物あ一ぶ
あと酒と作をありぶ山うあんぶ薬つりぶひつさて
きりたうれいふて立ゆゑとれぶ乃うへよあら完乃
うらへやうよりをふこと見くへうりぶまあり
久つぶ山うかくめうとけ出ぶ一くたきよ去り服
ちくぶ市りをぶ出ろ乃神りて右ろあるやぶ又六
第よるろ庭ふにりあ一ぶ一くて死ろうぶ名ぶ
あまてらふひとを去りて行ぶらあよりくあり

けりありと人りろぶ先あまをあ者一ぶみ死てさ
つも西こに出そろ一さ事せ

六 陰後乃日と雨てちろるの

駿河乃国大文とて知ぶ林舞とふ名ちあり正
保年中ぬ乃六月の初めもぶ孫兵とふ蒼伯よ
同作とあくありさをるあり。行あ一さ八月十ろ社
ちーろぶそ乃おくふ海どひせぶ乃方へあり文
けをとを人雨こめ一ぶ一ぶりぶりぶて八月十二は
ろぶ文乃清あるしふちよめてぶわ一雨出そ
死ぶすべ一釜をもて行ろをとふぶ雨たる
まろぶだりれ死ぬべきまとれろやとろ
中りくやとてぶうぶやをとを事とてぶんをあ一ちく

あさらまーよぞ二日ものの刻ばかりぞ西こそ刻ばかりぞ
ぞげくがんの中よりて姓をうり銭をうることを
をぼうしの書付ぞ見あらんとおもうぞせよためしもく
ふさきまやとうり林毎ハ手柳の書付ぞ

七 食の食物ーとうしに拾てあそひーまー
尾張の名屋うり。黒沢の
ーつうりーーせさハえんくこそ和尚のうり食の
くひ物ーあまーびそうーめめくーてだーーくそうー
ぞ年すきてだるりとけあうとうぶ晩うぶ家うぶ
ううのとーきとうーー長和尚を八開山御食獅
ありがのもの屋をとうびくぞぐんくーとしハ婦
のいうーさそくぞとうまーうぶこれハ方上とうの八婦

稲ありとて屋びたくとうかうのつえそづまよりたく
婦うり入て煙元と稲ーぞとて食くやうよぞたそ
きうれバうか食ーよ来ぞうり。いりあと三の蕨うり白こ食也
屋をのーくーやうぞ食とうぶ主婦ーとうひ妻ーく
バこまーるうべーぞのまうくーうーうーぶ機元
すべきぞとうぞうれ先大仏食ぞれぞーひーくまー
うぶのびーうーぞにくーくーうーうーうーーー

八

[illegible]て[illegible]て[illegible]て

[illegible]とゝまるせぶ小僧たよ八ん經とゝまるせうり村中
八大まつのやうみてゝうゑるよ村のゝゝもあるゝゝみ
ゝゝゝ

ゆくまゝにまた次郎八もいのゝ親うてあるとしを
すぐるとちがひなくぶらくぶらくゆきまてあるいて
をとゝいつぽもをもゝうろふいぶりさ西りを雲用果るうべ
とゝ時次郎八ゝとやうぶりうろひりさあゆてよ多ゝ
ゝれ文の春吉と合ひりうといまし弁ゝひ
まくうゝゝものゝまれぶ文よ多ゝうといまし弁ゝひ
ちゝちんた先生べしゝそぶゝいまし弁ゝ稽ゝ
うゝりて幸兵ゝを先と新ゝぶゝくゝうゝうゝひゝうゝ稽文
の次郎八ハたゝゝ幸ゝゝるゝぶゝりゝ大酒ゝまんひ死ゝり
ごしを祖とゝふゝうゝひば茅子ゝ生て世ひゝとひゝる
ひゝまぶまゝたゝるふゝくゝ

十一　蛇とび到てゝとゝひゝるゝまゝ

山様ゝり丹波へ到ゝるゝりぶゝりけゝと云ゝりがのゝ
を出ゝゝゝりのあり京ゝ京ゝう京ゝ京ゝつゝた
どゝ切ゝりぶゝ京ゝ病ゝう行ゝりぶゝを京ゝりゝ
ゝりゝを付ゝまゝぶ京ゝゝゝんゝゝがゝ義ゝ川ゝ渡り
て渡ゝて川ゝゝゝ墓ゝあゝりぶゝう京ゝのゝゝゝゝりゝんゝ
まゝぶゝ京ゝ墓ゝつゝまゝりゝて川ゝのゝゝひゝとゝ力ゝて切て食
ゝりぶゝくゝをゝりゝぶゝゝ行ゝゝりゝりゝまゝふゝ
りゝまゝ行ゝゝ行ゝくゝりゝうゝやゝんゝゝひゝんゝりゝて
行ゝ海ゝ京ゝゝゝて乃ゝまゝ八ゝ京ゝ京ゝつゝ八ゝ宿ゝ小郎ゝ京ゝりゝた
ゝて蜀面ゝゝれゝ八ゝ扱ゝもゝりゝうゝゝぶゝゝゝゝと乃ゝ行ゝりゝ義
川ゝゝゝゝりゝて死ゝ人ゝを食ゝゝりゝりゝ乃ゝりゝりゝ血ゝゝま
ぐゝくゝゝゝりゝて出ゝゝりゝりゝを京ゝ京ゝくゝすゝゝさ

十二　産所の祝とて貢用よりあつまりて
酒たばの国府へ参り智の内来客あり芸妓年中う
奥がしより産所一人宮ゐたるよりするとて紙
書へとりずかりて西東取てこうこうかこ
びんどこあけて宮式の金銀一と取ひごの下
うとさうたうこうこう行ものさ国林泉もの信心
明所とのでそのあれつさん七日の来客うり西東
しもるが産所の金銀ちんく西金ちうり行りく
かぎこうつがきこをそぬすこれうり産所八年ものを
こうとれさ先てひごのものとくあうり金銀のか
ちくあうれてひとちびやうれ宮の縁
をきまとぬくをんとうの内来のい方法るうびさそいて

びんどこをやうじにゆひつをてぬ来よまいくせちく
分こにうてトかりてトかりてくへあまこ新
つまこうてりとやくあ服のきありうごうう
ちひさて言はいつくと向うこれたげのこせ
ソかう方うてぬ来こへいづくよりこそりとあまた
ぞれくこをもうせごあこてうあひうり行おくうり
けまはびんどこハ清子うとうと付てありずふりう百
れとれ金でいくく我盲用くうまれひくま。
お代ぬやの清水りやうぬこうこうさはまり蓮飯
をこへくくぬよりキ和ちやまちくまりぬくトこ志
うこおりかう金のこをこうこう信仕ひりふ貢用とめら
ぬとこをつとそいいまうはそくく西貢果のたら

まちうしろひまちすまして御ぐうさ行ちとあるのを
かへひとごとをふかのめ来雲うあり大生ち乃海岩
わるかんものくうるゆ

十三 馬うまを我ゆ乃義ふみしあるゆ

尾張中務郷 移和村と云ふ所乃元乃名あり宮
永十六年三月乃ころ尾張乃義と元
乃ゆうめと赤しる紙をたりてうやうゆれを出国
果にあてるう和くを江乃大はの宮ごと和ふく
下町ゆ乃和ゆ乃ものるそ乃宮あり
大津うと年わうしぐゆう対馬とうらうれ
陸さうく苗ばの浦ゆ来とうのゆ宮をて入うと
苗はう右ゆ乃ゆ乃は海るゆれバ宮と和ゆ

ひまのくに江戸(こうてうぶ)ものやるゆあうう
ぺうひつき変るとゆこけっゆ入ぷせ馬ゆうと
金ろうごと口にゆめつるとらうむうとつくうて
と和とうんぷうしうゆ(こうまうぐうゆ)ぷ三年
八年ろう和ゆうまうつそぐ常ろうて始ワうて
ぷ光くうきうきうと光弁ろうふゆうくゆ義う
乃てうと光八弁のま行くは義とうんて立ゆる
ゆ八光ふうくゆうて出うて行ゆひ
ロゆ行うくうゆ和ろう乃義と乃てうとうと光
も和ゆ義と方てうとうて大ゆ和ろうげ式の
ぷうろぐ光弁ゆ出て大津うゆぷ苗来とたゆ和
布ゆ義のやうとうぷ苗来とうとうもゆうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へうたんかいあるがはぎうり宿をかりてねうちぶうりぶ
湯屋がだけはぎ〳〵とりんあくうの中へ樂湯のつき
ぞうの中へかの出家ゆびとりこもりこれ入きりふと見るあ
けくるものとおもひて一ぱいけまだねゆびあつきまま
湯ぶくろ〳〵を指と湯の中へ〳〵のれぶつきのよ
うりとおんうこそこゝゆびとりこれぶつく和くうと
かひけりぶうりゆびとりこれ入りぶくすりうみう
出こうれどもこの出家〳〵ようく入て腰とうふり入て
ぶう〳〵てこれぶよ〳〵あつくて湯の孫のうりう
地獄とみかへてがらりあしてこんぐうぶ
ちへいうくまがうるゆ〳〵とつぶなりの目とぶんぐ
ゆ〳〵ぶきうくふりてぶうりゆまうるあつぶ

りそこにちづこうりおそれとてもとうもぜぶり二
人の間の恋うり物ごうさうもせうもて寛永の中ばけ
うり伝授ぶんひくひうりもてぷうるぐうばぐうた
ちうつぷぜうこうう三種あり。ぷうは物ぜんハ物うりぐ
二うりハ物ぜんハ主ちうくぷ三種ハ本世うりあうこうり
物種ぐうくとて日ぜううてぷうう物うきぷうんぜん
ぜうかひうり世ぷうぜぷうれうもあうぷうもうあうぜん
かぐうぜうくうハけうぐうきぐうくうあうぐ

十六 種ぐうの伝陳紙恵相ぐぷ

こぜうの七年ハうぜぷうるうぜうぜうるうぜうぜ
ぷぜうぜうの所西牛宮和尚ぜうぜうぜ
うぐ二年ぜうぜぷぜうぜうぜうぜ

ちうぜうけうぐううぐうぜうぜうぜ
うりあうぐうぜうぜうぜうぜ
寛永十二年の春ぜうぜうぜ
てうぜうぜうぜうぜうぜ
年の物ぜうぜうぜ
ぐうぜうぜうぜうぜ
しうぜうぜうぜうぜ
きうぜうぜうぜ
うぜうぜうぜうぜ
あうぜうぜうぜ
まうぜうぜうぜ
りぜうぜうぜうぜ

りぬるそうきゆのゆめとひつさげあ
まらそ立こうぬ。まとかくもぬやそあえ入たまふ
ぬこうぬびえそうゆく新とあて伊元行き来りぬ
まうて行こうつぬこうかたそうきゆめとかこう
ぬあせとあぐてこうぬまこたあ中ぬ伊こうぬこと
しぬこう中氣とあるこうぬ。ぬこたあ嶽るよこうぬ
新待う来ぬる乃伊元行とありこうぬ日行こたふ
うぬ知いこと一人宮のこうよ移ふつあてぬこうこと
乃新たこうぬこうへてあこうを氣とつあて指
いこふとこへぬとこ又行こそうこ尼まうて報とひこ
ちこゆんとこうぬこうこうこうこうこうこうこう大
あせとあぐこうぬ牛宮知尚ぬ義ところわよ陽右

てれこうけるあへ行こたあ安のゆめとをりこう行こう
てこんあちこふぬこうこ小寛永年十二月廿七日
こう藤面とこあ乃長那元とぬ伊元こうぬ毎
よあ行ふうぬ長船の門こうこうこうこうこうこう
ぬこうあこうこうこうこうこうこう銭こうこうこうこう
ぬれいこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこう伊の伊元こうこうこうこうこうこう
こうこうこう伊元こうこうこうこうこうこう
こうこう廿八日こうこうこうこうこうこう
こうこう廿九こうこうこうこうこうこうこう
こうこう牛乃こうこうこうこうこうこうこう
こうこう大地そ乃こうこうこうこうこう
こう伊こうこうこうこうこうこう相乃こうこう
そ伊こうこうこうこう

十六　西伯よとりてまつりひろまり
東三門のこやうめいとそわらわ源氏物語の
乃母がそうと源氏物語をもとりだす
乃母の兄
はうとんて胴神づりとやきうり。ぼうせのこだれ
をとりけく又びりりとやきうり。源氏物語のちぼ
中年すぎてから乃母わづひとめよつきてぼうくちち
ぐつてすきまうでをわり婚家と村り食稲と
つふ伝をかきて稲荷と祀りてとりひろれた宝よ
ちりとるしその村の庄屋やうぼんだい源氏
とつふ稲荷りとりまるがらばてうやうぼうふず
とりとびむとめぼぐつていりぼと源氏物語牛尾まるりく
大りりりとりまでを書とりるこ

ぼりを天ぼはりりき加ぼ
ぼくくしを稲乳りりると物語りくつまてゆき学
雪わるとなりてさぼくくりひけまばむとめの稲
乳を先りりりぼひりりをりる伝りりまてまき
りりにたちとりりまりそりの出まれりぐくりる西
りりぼりぐりりふたりんぼ。りぼ師とりりぬべさまる
りり。稲色むぐんの伝りもいりぐ。雪物を法乃ほ師
りりりりぼ。ぼ乃伝りりぼりりり

して初穂貴賤のまつりとてさしねぎらう村の長屋の
女房うなのさとうぶさまうさうの村の門
うたて一人あうぶしまうの食をこあどとうもも
ぶうとう秀もの食をこあやうてうのうびはまうぶ
意しとおりまとと新とうぶのえりはうてぶ食を
はうとのぶうぶぶうくうとうとう人ぶうとうまうぶ
て人形とうとうと都とうとうとう都とうとう人形の多代門
うとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ぶうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ひとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

みのたいけたのぎ

つまりて二百すぎて村の代官こまこと[illegible]
くべきまをつぐべしとつかはせば遅まつうちうをさくこめ
ぶたのをくぶ馬のをうとても銭うつめるぞやと
をてぶ[illegible]しまかぶるとぶ[illegible]ぶをもらへてへとき村中
畜とてこしろうぶくろぶぐ銭村力山の地ごくとあつて
くろ寛永十八年十月年貢也元こ川ちりめてやさ
まひし

十八

伝兵衛と云伝兵衛て稲こ生れ
尾張国名古屋の長蛇る吹抜和尚の同りよ伝兵衛と
伝あり。遍歩きあまりとして。こ川の元井もの書る
う伝せしぶろ時吹抜和尚元井もへ行ひとき
かの伝兵衛のやう名古屋のちるめり海辺の網

而役をつとめて居りしとき[illegible]
ちをかくしと作わり[illegible]
付てつろうこ[illegible]
尚の長う伝兵衛[illegible]
山伝もへまつう[illegible]
法の杖也和尚[illegible]
て長う見てこお[illegible]
来ぶことゆう[illegible]
つうよ古さつぶ[illegible]
まふ和尚長年ふ[illegible]
ちぶと伝兵衛[illegible]
あるまて食とあ[illegible]

うくるものの物とうくるかこくふしてあるべきことをおぼえ猶をつけて猶こ同名にいゆるべき元祐法師とこゝ元ばゆ金をそなるものかまもしへのあくしてず年ばうるるそ寶亀永年中ゆ死とそさしのまもばんうくるりてかくもの

十九 出家の母物ゝ生れしまれ

たゝ国醍醐四ノ白名寺に住僧者ゝ名ハ
寺別院堂の華厳の経ものの梅書役ゝ書ハ
法ふとそ町ノ兵部卿ゝ
つけるおるとそ何とそ梅書役ゝ
法院の時出家とりとノ兵部卿
義りかいなつきそつくぶはこまもとの母ゝ

をとそとそさのふぶおつまそ物ゝとそ元大寺ゝ
て伝ふくれりふる所よ沢ノ和もえれ
ぞこ所拾ふまつ弟三和の寺ゝ
ゝ周ひ法ばるは寺元ゝ
といふ和る大きゝ和ゝ
とこひけくぶ川四ノつまて
けるまび物事巡寺ノ
寺永まゝ山ゝ江部
産ゝとそふまゝ句神ゝ
和ゝのまゝくんゝ
てまゝぶいぬ寶永年ゝ
しまゝひて伝ゝ布法ゝ

三十 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]ぽうちんのあるせめうぽさるびゑてあるを
ごとをめりうたるつとそうものあゆーこてぽうちんの合せ
めとかうるぬぽうるもうるうちうくひ合てすうるうるの
あかもりぞも字づやがの毛びうるうるよたさに
ありうくぽかいくさいようこうるうるはてさぐうもあるは
そくうるう葉のまうくくくうるぽうるーるもいるくくよ
き仏ぽうるうの和尚うるかうるうるばそぐたうまも
神うう第のくくいうぽうるぐとそくくくあるる武蔵
国用こして福寿院うるうあうて祝ってうあるぽう
和尚和尚すぐやくまりのふよぽうるとうるうれぐ
和尚のいくくこれいうきこまーあるぽくーやうるるる
ううといとれそたうるうるうれぐあうるうるーく

廿二　吏姫形ってうるの毛びくく第ーまー
江戸吉祥寺の下、清水たる流の流れうる浄ちるあるぽ水
戸殿ちぽかの清池とうるせられぽこのちとうるく流れる
しに吉祥寺和尚悟郎信情ちうと流ぽとあけてちを
どうるふぽうるくるんのの毛びくく合てあう
ぽうるうるふたさうるうるうて一尺七八寸ばかりぐぽとい
きうるるちぽくぽかくく合ーくくぽくーこ度くでうれくくーこてあ
の仏くくまくるんくくたさうるぽぐるうるさうるぽかるるの仏
抜出くくこうるの毛びくくうるうるぽかるるの仏
ちてぽくくこんくくるる生てあるくくくあるくくくるる
ぽくくるるびてちくくーやくくるくくく

ぞうちぶ山てんのひとをんナセ八業うちがこのつぎうちよみ
あわりつそぐまりて二の魚びとうひきて呼ぶ也そ
月の大きりハ行年まを魚つとうへ也石橋のそもんハ田
宮魚ととうへりぶ人をもおぶ月ナうちに樂の稼み
て逝とぶ也六年めよ世原ぶ行ーやまひうて十二月
ナうちに死とぶ世原ぶ若福もうてうひーや行石橋と
ようとぶ艶とカ行ーうちそのめうて寛ぶ六年二月十八日
ぶまーこぶーに業会云ぶ初とうち世原ぶ拠んぶりく
ぶーてはとてれうくのうーぶてんのくぶつさする
まもうへりーぶあうれりうーまもぶうとう織ぶーぶ
ぶひ行ぶ世の人のたんぐーとあーたんうてぶんぶ
まとぶ学りうぶめうのうんぶ

三ぶ巻終

宇治拾遺